

ふれあい

<http://www.aoyama-hp.or.jp>

シリーズ第22回



新たな国民病 「慢性腎臓病」について

腎臓内科部長兼透析・血液浄化副センター長 菅沼 辰登

腎臓という臓器は常日頃意識されることが少なく、また腎臓の病気は病状が進行するまで自覚症状がないために、腎臓は「沈黙の臓器」といわれています。しかしながらこの10年ほど慢性の腎疾患について注目されるようになってきました。その契機は2002年にアメリカで「慢性腎臓病(Chronic kidney disease、CKD)」という疾患概念が提唱されたことであり、次いで2006年から日本でも慢性腎臓病という用語が使われています。

慢性腎臓病とは、慢性的に腎臓が障害されたり慢性的に腎臓の機能が低下していたりする状態の総称です。このような疾患名が提唱されるに至った理由は2つあります。1つは、末期腎不全患者数すなわち人工透析患者数の増加です。2013年末の日本の人工透析患者数は314180人で年々増加していますがこの増加傾向は全世界的なものです。2つ目は腎臓病の患者さんは心筋梗塞、狭心症、脳梗塞、脳出血といった心臓血管合併症が多いことがわかってきたからです。でるだけ早期に腎臓病を見つ

け出し適切に対処することによって末期腎不全への進行を抑制し、心血管合併症を防ぐことが大切です。

慢性腎臓病の診断には特に難しい検査をする必要はありません。尿検査と血液検査で診断が可能です。尿検査で「尿たんぱく」を調べ、血液検査で「血清クレアチニン」を調べることにより診断がつかめます。尿たんぱくが陽性の場合腎臓の障害が考えられ、また尿たんぱくの量が多いほどその障害が強いことが多いです。クレアチニンは筋肉での代謝産物で代表的な尿毒素の一つです。本来は尿中へ排泄されますが腎機能が低下すると血液中に蓄積し高値を示します。この血清クレアチニン値から腎機能の指標である「糸球体濾過量(GFR)」を算出することができ、正常な場合を100としてGFRの数値が60未満なら腎機能が低下していることを意味します。なお、血清クレアチニン値、年齢、性別により計算されたGFRを「推算GFR(eGFR)」といいます。

こうした検査により①腎臓の障害②腎機能の低下、のいずれかまたは両方がある

り、それが3か月以上続いている場合に慢性腎臓病と診断されます。

慢性腎臓病の正確な患者数は不明ですが全国で約1300万人と推測されています。代表的な国民病である高血圧が約4000万人、糖尿病が予備軍を含め約2000万人といわれていますが、それに迫る患者数であり、新たな国民病と考えられています。自分では気がつかないうちに病気が進行していることもあり、慢性腎臓病を早期発見するには、年に1回は健康診断で尿検査と血液検査を受けることが大切です。特に、高血圧、糖尿病、メタボリックシンドローム、肥満、脂質異常症、喫煙習慣などは慢性腎臓病の危険因子とされています。ひとつでも当てはまる方は積極的に検査を受けることをお勧めします。





遊びの広場の解答

10月に入り季節もすっかり秋めいてき

病院の理念

患者さま側に立った全人的医療を目指します

基本方針

地域の中核病院として安全で質の高い医療に努めます
患者さまが安心出来るゆきとどいた診療を提供します
患者さまに信頼されるゆきとどいた看護を提供します
患者さまに満足されるゆきとどいたサービスを提供します
患者さまがやすらげる快適な環境を提供します

患者さまの権利

1. 適切で質の良い医療を受ける権利を有します
2. ご自分の医療の内容について知る権利と説明を受ける権利を有します
3. ご自分の医療の内容について自由に選択し決定する権利を有します
4. ご自分の医療について他の医師の意見を聞く権利を有します
5. 人格を尊重されプライバシーを保護される権利を有します
6. ご自分の診療録の開示を求める権利を有します